

実技音楽検定



ハープ 受検要項

2025年6月



ハープ実技検定受検要項 2025年6月以降

目次

1. はじめに	3
ABRSMについて	3
資格認定に関する詳細	3
対面実技グレード検定について	4
UCASポイントの資格認定規定（英国）	5
資格認定規定（ヨーロッパ）	7
資格認定規定（それ以外の国）	7
2. 対面実技グレード検定	8
対面実技グレード検定の概要	8
シラバス(要項)	8
検定規定集	8
不正受検と不正運営	8
受検申込	9
受検へのアクセス	9
特別な配慮	9
多様性	9
検定の実際	9
3. ハープ実技検定要項	11
はじめに	11
楽器	11
所要時間	11
課題曲	11
スケールとアルペジオ	13
初見演奏	22
オーラルテスト	24
オーラルテスト詳細	60

4.評価と採点、及び違反行為	68
評価の目標	68
評価の配点	72
評価の区分	72
包括的評価について	72
評価・表彰	72
違反行為	73
採点基準	73
5. 検定の後に	76
結果	76
アピールとフィードバック	76
曲目プログラム用紙(提出用)	77
プログラム用紙サンプル	78

1.はじめに

ABRSMについて

ABRSMは英国王立音楽検定協会(The Associated Board of the Royal Schools of Music)であり、国際的な音楽教育慈善事業です。私たちがやっている全ての中心には、音楽が人々の人生を豊かにするという信念があります。受け継いだ伝統に基づき、全世界の生徒や教師たちに対面実技及びオンライン検定、楽譜、音源、アプリ、講義などを提供しています。我々の検定は明確な目標と信頼できる一貫した評価、そして今後の学習のためのガイドを受検者たちに与えています。

私たちは、英国王立音楽大学からの協力のもと、様々な音楽的な成果を得て来た長い歴史を持っております。単純な検定機関としての役割を超え、全世界の学習者を最初の一言から支援し、音楽スキルを培い成長させていくための手助けをする先生たちの力添えとなっています。

慈善団体として、私たちは得た全ての利益を音楽教育の取り組みへの寄付や世界中の学習者や教師の支援に投じています。私たちは音楽をその様々な面において支持しており、社会における音楽教育の位置とその未来を守るために出来ることに尽力しています。

その中の一つが高品質で高い評価を得ている検定を提供することです。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

1889年から、全世界のパートナーたち、先生たちやその他の方々と共に、皆様が「音楽の旅」を始める、又は続けられるように音楽の未来を育んで来ましたが、これからも同様に励んでいく所存でございます。

ABRSMとは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局本部はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

資格範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー3)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項は2025年6月1日から新しいシラバス(セクション3)告知があるまで有効です。特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがありますが、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

この要項の最新版はwww.abrsm.org/examにて閲覧可能です。

実技グレード検定について

資格認定の目的

実技検定試験は学習者が音楽を演奏する際に必要な技能を段階的に身につけられるように作られています。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。検定を通して、受検者はこの先の学びの過程において支えになる受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取ります。実技検定試験は学習者が自身の楽曲演奏スキル、テクニック、読譜、聴く力、及び音楽的な見識について評価され認められる機会を与えます。

受検資格

受検に年齢の制限はありませんが、グレード6から8を受検するには受検資格条件を満たす必要があります、詳細は英文5ページに載っています。

学習の道すじ

ABRSMの実技グレード検定はグレード1から8まであり、楽器によってはイニシャルグレードも含まれます。それぞれのグレード検定は、実技演奏の際に求められる知識や解釈を正しく評価できるように作られています。下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありませんが、グレード6、7、又は8を受検する場合、事前に取得しなければならない資格の条件があります(英文5ページ参照)。

実技検定では早い段階から楽曲の演奏スキル、テクニック、初見での演奏、オーラルテストなどを含む幅広い範囲の音楽スキルの取得を重要視しております。

実技検定の受検者は、音楽を学んでいく中で必要を感じるなら、演奏能力に重点を置いたパフォーマンスグレード検定に移行することも可能です。パフォーマンスグレード検定資格は、学習者が楽器のテクニック、音楽的な解釈、表現力と伝達力など、演奏において重要となるスキルを披露するように構成されています。グレードは段階的に設定され、受検者に学習動機を与え、自身の演奏スキルを磨くための新しいチャレンジとなるように設計されています。更にパフォーマンスグレードは、受検者が一定以上の長さのリサイタルプログラムを演奏して音楽的な表現を聴者に伝達する能力を認められ、褒賞を得る機会を与えます。

どちらの検定資格も演奏のみのARSMから始まるABRSMのディプロマ資格へと進むための理想的な基盤を提供します。ARSMは受検者にプログラム構成におけるより多くの柔軟性と責任を与えることによって、レパートリーを増やすと同時に演奏技術と解釈に必要なスキルを習得するためのさらなる機会を提供します。

LRSM,FRSMディプロマはARSMから段階的に上がったレベルです。ライブ演奏と筆記/口頭発表の要素を通して、LRSMとFRSMレベルの学習者は高レベルの音楽性、評価能力を証明し、演奏における音楽的な判断を裏付ける状況的な証拠を提供します。

ABRSM演奏ディプロマ取得への学習者の個人的な動機に関係なく、各資格は更に上位の学び、または就職への道を開くことも出来ます。

ディプロマ資格などに関する更なる詳細はwww.abrsm.org/diplomaも合わせてご覧下さい。

受検資格の事前取得

グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ・ ABRSM 音楽理論 グレード5以上
- ・ 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上
- ・ 同対面実技検定ソロのジャズ楽器 グレード5（訳注：日本では行われておりません）

代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと

UCASポイントの資格認定規定（英国）

英文5～6ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳注：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加点される）詳細は、以下を参照願います。

www.abrsm.org/regulation.

www.ucas.com.

<https://register.ofqual.gov.uk>.

大学受験

英国では、ABRSMの実技検定（対面、パフォーマンス両方）グレード6-8の資格に対しUCASポイントを付与します。以下の表はそれぞれの得点を表したものです。詳細は www.ucas.com でご確認ください。

資格/グレード	合格	UCAS ポイント	
		Merit (優)	Distinction (秀)
グレード6	8	10	12
グレード7	12	14	16
グレード8	18	24	30

資格認定規定（ヨーロッパ）

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。（英文6ページ参照）

資格認定規定（それ以外の国）

各国のポイントについては以下を参照願います。

www.abrsm.org/regulation

2. 対面実技グレード検定

対面実技検定の概要

検定内容は？

- 課題曲 3 曲
- スケールとアルペジオ
- 初見
- オーラルテスト

検定方法は？

- 1 対 1 の対面検定
- 評価と配点についての情報は英文 72 ページを参照

シラバス

この要項（シラバス）は2025年6月1日から次回シラバス更新発行まで有効です。

シラバスの変更

すべての変更—変更告知、マイナーな変更点を含む—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections.

移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。 www.abrsm.org/overlap

受検者は、2025年12月31日までは2019年のハープシラバスからの曲を演奏出来ます。課題曲とスケールを含む全ての要求は、同じシラバスのものを使う必要があります。

次回のシラバス

次回シラバスの発行は2024年に告知され、2025年から有効となります。変更点などについては以下のサイトを随時参照のこと。 www.abrsm.org/syllabusupdates.

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。

不正受検と不正運営

私たちは、いかなる不正行為にも厳しく対処します。

- **不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含みます。
- **不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。受検者及び申込者によって不正受検が行われた場合は罰則があります。不正受検と不正運営に関する詳細は英国公式ウェブサイトにてご参照ください。 www.abrsm.org/policies

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。 www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。

info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。 www.abrsm.org/policies

多様性

ABRSMは音楽界においてさらに多様性、平等性、そして包容力を推進していくことに全力を尽くす所存であり、私たちの組織内においてもこれを成し遂げるため努めております。私たちの多様性を担当する部署及びその最新情報については英国公式サイトのページをご参照ください。 www.abrsm.org/diversity-statement

検定の実際

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。

検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されますので、余分に用意する必要はありません。

検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

チューニング

受検者は必ず自身の楽器を検定会場に持ち込み、事前に調律を済ましておく必要があります。スケール、初見、課題曲の演奏でペダル及びレバーの変更に必要な時間は十分に与えられます。検定員がチューニングをしてあげることはできません。

譜面台

検定会場には譜面台が用意されていますが、受検者は自身で持参することも出来ます。高さの調節などは検定員が手伝う場合もあります

検定科目の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲や、デュエットの場合は最初に続けて受検するのが望ましいです。

楽器

ABRSM認定会場においては、アブライト/グランドピアノが用意されています。ピアノ以外の受検者は必要な道具（例：足台、フットピン）の携帯を忘れないこと。詳しくは次ページに記載されています。

3. ハープ実技検定要項

はじめに

- レパートリーリスト(課題曲リスト)は、追加の新しい曲と既存の曲を含めたものに改訂されました。
- 以前より多様なジャンルの曲を含む拡張されたリストにより、課題曲の選択肢がも増えました。
- 課題曲の各リストは、音楽的な特徴によって分けられ、受検者がバランスの取れたプログラムを演奏し、様々なスキルを披露できるようになっています。
- 技術的な発展と進歩に重点を置き、現実的で挑戦可能な検定内容になるようスケールが更新されました。
- 両楽器の初見が更新されました。

全体的な資格規定に含まれていその他の重要検定情報も更新及び明確化されています。

楽器

ペダルハープ：グレード4以上は、46弦以上のものを必要とします。

ノンペダルハープ：グレード3以上は、E $\flat$ チューニングにて34弦以上（最低弦は中央Cから2オクターヴ低いC音、或いはそれより低い音であること）。

検定所要時間

下記に記された時間はハープ受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員がマークフォームに記入し終えるまでのおおよその時間を示します。実際では表記された所要時間を前後する可能性があります。

グレード	グレード1	グレード2 & 3	グレード4 & 5	グレード6	グレード7	グレード8
時間(分)	17	19	22	25	30	35

課題曲

この検定では、課題曲はその曲の特徴によって広く各リストにまとめられています。

- リストAでは、比較的速めの動きのある曲が選ばれ、技術的な機敏性が必要とされます
- リストBでは、より叙情的で、表情豊かな演奏が求められます。
- リストCでは、伝統、様式、音楽的特徴の幅広い多様性を反映しています。

課題曲の組み合わせ：受検者は三つの課題曲リスト(A,B,とC)から1曲ずつ選曲します。* 受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません、この要項の巻末にある曲目リストに記入して提出する事もできます。

課題曲は、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれております。曲の選択は、各々の受検者に適切であるものを選ぶべきであり、場合によっては先生や保護者と相談する必要があります。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは www.nspcc.org.uk/onslinesafety をご参照ください。

レパートリー(課題曲)リストはパフォーマンス グレードと共通です。両方の検定を同じグレードで受ける予定の受検者は、それぞれ違う曲を選ぶことで自身の音楽的な成長に良い影響を与えることが出来るでしょう。

楽譜と出版社：編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。ダウンロード版も可能です。詳細は英文12ページを参照のこと。

楽譜の解釈：記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に合った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけではなく、音の高さ、リズムと拍、音色、フレー징、パフォーマンスなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

手の大きさについて：受検者はご自身の手の大きさを考慮して曲を選択しましょう。必要に応じて和音を分散して弾いたり、ある音を省略しても音楽的に問題がなければ減点されることはありません。

繰り返し(リピート)：*da capo*と*dal segno*は、必ず守ってください。ただし、非常にみじかい(2、3小節以下)ものや、特に指示がない他の繰り返しは、演奏されないものとします。(第1カッコ含む)

Ossias: オッシア(別の演奏法)が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

譜めくり：検定中、譜めくりに困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません(次の「コピー」の項をお読みください。) G6以上で、譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者(指導者など)を同伴することも可能です。検定員はいかなる場合も譜めくりはいたしません。

コピーとダウンロード：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。(詳しくはwww.mpaonline.org.uk をご覧ください。) その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽器店やオンライン書店で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られております。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。

スケールとアルペジオ

暗譜：全グレードにおいて、暗譜で弾くこと。

指定範囲：受検者は、指定された範囲をカバーしていれば、鍵盤のどの音からスタートしても良いことになっています。シラバスにおいて特に指示がなければ、両手の場合は1オクターヴ間隔とし、全て指定された範囲（とパターン）において上行、下行をしなければなりません。

リズム：全ての演奏は均一の音の長さで弾かれなければなりません(属7の和音、減7の和音など特定のパターンが指示されている場合を除く)。

パターン：アルペジオと属7の和音は他の指定のない限り基本形。全ての属7の和音は、その調の主音で終わること。3度重音奏および3度スケール奏では、下のパートがその調の主音となります。6度の場合は上のパートがそれに当てはまります。

アーティキュレーション：要項にスタッカートの指示が有る場合を除き、全てレガートでの演奏となります。

指使い：音楽的に有効であれば、どのような指使いであっても、受け入れられます。

検定の実際：検定員は通常、各課題から最低1問ずつ出題し、それぞれ長調から短調へと進みます。各転回形や手の使い方などの要求も全体においてバランスよく要求します。検定員は、下記のポイントを指定します。

- 調(短調－シラバスにて旋律/和声を両方規定する場合それも含む)又は弾き始めの音
- 手の区別(左、右、両手同時、両手分散、narrow position)
- 両手間の音程の距離(グレード5-8における両手のスケール)
- グレード4-8におけるアルペジオ及び属7の和音の転回(基本形か転回形)

この要項で規定されているスケールパターン例はペダルハープ用が英文14-16ページ、ノンペダルハープ用が英文17-20ページに記載されています。

参考文献について：練習用に問題集(グレード1-5、グレード6-8)がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

スケールとアルペジオのパターン：ペダルハープ

次の例は、ペダルハープ要項にて規定されているパターンと範囲を明確化するためのものです。より正確な内容は要項の関連ページをご参照ください。

3度スケール：片手ずつまたは両手で、1オクターヴ



アルペジオ 片手ずつ、1オクターヴ、基本形



2オクターヴ、基本形(同様に、3, 4オクターヴ、第1、第2転回形)



属7の和音 片手ずつ、または両手同時

2オクターヴ、基本形(同様に、3, 4オクターヴ、第1、第2、第3転回形)



属7の和音 両手に分散

3オクターヴ、基本形(同様に、4オクターヴ、第1、第2、第3転回形)



属7の和音 ナローポジション・4オクターヴ、基本形



親指エトフェのスケール 左手のみ

1オクターヴ



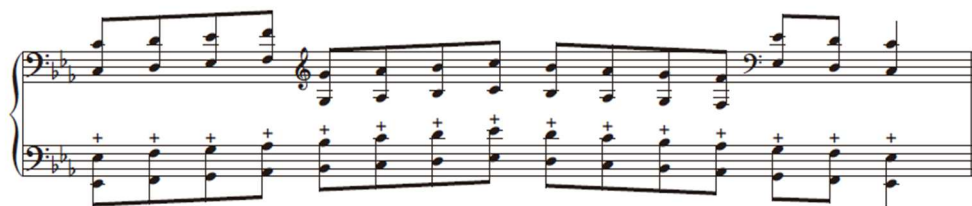
エトフェのスケール・オクターヴ 左手のみ

1オクターヴ



左手エトフェで、オクターヴスケール 6度間隔で

1オクターヴ



ハーモニクス(フレジオレット)のスケール

片手ずつ、又は両手 1オクターヴ



減7の和音 片手ずつ、または両手 4オクターヴ



スケールとアルペジオのパターン：ノン・ペダルハープ

次の例は、ノン・ペダルハープ要項にて規定されているパターンと範囲を明確化するためのものです。より正確な内容は要項の関連ページをご参照ください。

3度スケール：片手ずつ又は両手で、1オクターヴ



アルペジオ 片手ずつ、1オクターヴ、基本形



2オクターヴ、基本形(同様に、3、4オクターヴ、第1、第2転回形)



属7の和音 片手ずつ、または両手同時

3オクターヴ、基本形



属7の和音 片手ずつ、または両手同時

3オクターヴ、基本形(同様に、4オクターヴ、第1、第2、第3転回形)

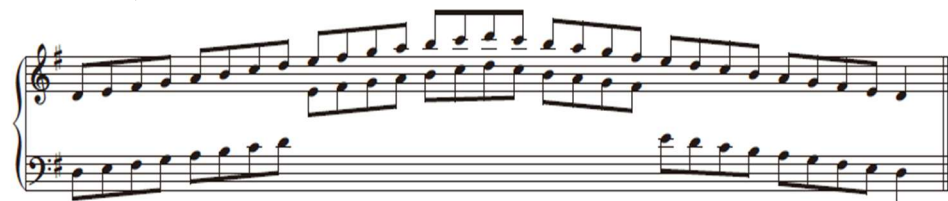


属7の和音 ナローポジション

4オクターヴ

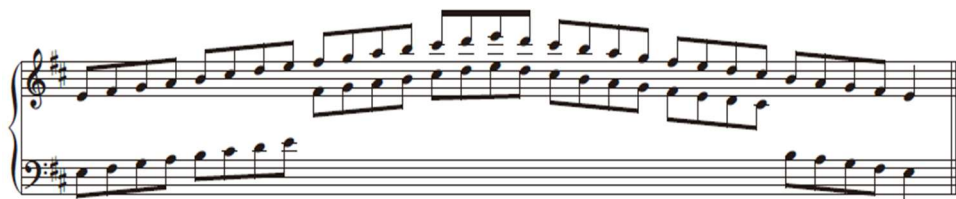


ミクソリディア旋法 両手同時



ドリア旋法 両手同時

2オクターヴ



メジャーブルース 右手のみ

3オクターヴ



マイナーブルース 右手のみ

3オクターヴ



親指エトフェのスケール 左手のみ

1オクターヴ

**エトフェのスケール・オクターヴ 左手のみ**

1オクターヴ

**左手エトフェで、オクターヴスケール 6度間隔で**

1オクターヴ

**ハーモニクス(フレジオレット)のスケール 片手ずつ、又は両手**

1オクターヴ

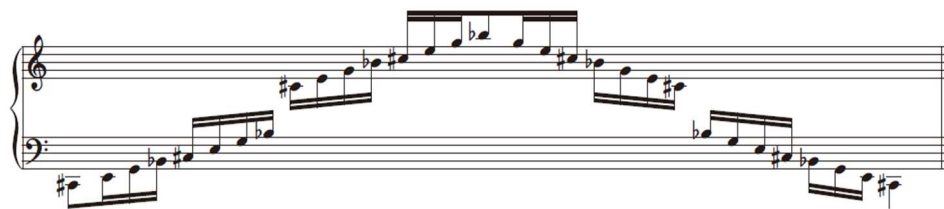
**減7の和音 片手ずつ、または両手**

3オクターヴ



減7の和音 両手に分散させて

4オクターヴ



属7の和音 ナローポジション

3オクターヴ



スタッカート半音階 右手のみ

1オクターヴ



速度: 以下の表を一般的な例として参考にしてください。

		グレード/速度							
	パターン	1	2	3	4	5	6	7	8
スケール									
旋律的短音階 (ノン・ペダルハープ)									
3度スケール									
反進行音階									
アルペジオ									
アルペジオ (両手に分散)									
属7&減7和音*									
属7&減7和音* (両手に分散)									
属7和音 (ナローポジション)									
減7和音 (ナローポジション)									
スタッカート半音階									
教会旋法 (ドリア&ミクソリディア旋法)									
ハーモニクス・スケール									
エトフェスケール									
ブルーススケール									

* 減7和音はグレード7と8のみ

初見演奏

初見演奏の内容：受検者は、今まで見たことのない短い新曲を演奏します。受検者は、約30秒の予見時間が与えられ、その間試奏をしてもよいことになっています。

出題範囲：英文23ページの表では各グレードにおける要素の出題範囲が記載されています。

指使い：音楽的に有効であれば、どのような指使いであっても、受け入れられます。

参考文献について：練習用に初見演奏問題集がABRSMから出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

視覚障がいの受検者：視覚障がいの受検者（全盲あるいは弱視）は、通常のテスト以外に拡大楽譜や聴覚テストなどで受検することもできます。受検申込時にお申し出ください。詳細は、次のサイトにてご参照ください。www.abrsm.org/specificneeds

初見演奏の出題範囲

以下の表は、各グレード別の出題範囲を示しています。提示された要素の範囲は、それ以降の上位のグレードにも適用されます。(訳註：例えばグレード2の実際の範囲は、グレード1+2の範囲となります。) 英文22ページもご覧ください。

グレード	長さ (小節数)	拍子	調	手の位置	音楽の要素
1	6 まで	2 / 4 3 / 4 4 / 4	ハ長調	- 片手ずつ 1音ずつ	- 音価：   - 休符：   <i>f</i> と <i>p</i>
2			ヘ長調 イ短調	- 両手 2音 和音 (それぞれの手に2音ずつ)	- 音価：    のリズムパターン <i>mf</i> と <i>mp</i> - 臨時記号あり(短調のみ)
3	8 まで	3 / 8	ト長調 ニ短調	3音和音 (それぞれの手ごとに)	- 単純な16分音符パターン - 休符： <i>pp</i> - スラー、フレーズ表記
4	約 8-10	6 / 8	変ロ、ニ長調 ホ短調		 のリズムパターン - 休符： <i>cresc. dim.</i>  - 弱起 - アルペジオアンド(分散和音) - フェルマータ
5	約8-12		ト短調		- 休符： <i>ff</i> - アクセント - 終わりのテンポが遅くなる - 単純なシンコペーション - タイ
6	約12-16	9 / 8 5 / 8 5 / 4	変ホ、イ長調 ハ短調		- 臨時記号(ペダル/レバー変更1度のみ) - ダンピング(消音)  3連符
7	20 まで	7 / 8 7 / 4		4音和音(それぞれの手ごとに)	- 臨時記号(ペダル/レバー変更) - 音部記号変更 - エトフェ - 両手で同じ譜表上の音を弾く - ハーモニクス - オクターヴ移動 (8va/8vb) - 単純な装飾音 - テンポの変化
8	32 まで	12 / 8			- 音価：32分音符 P. d. l. t(プレデラタブレ) - 拍子記号の変化

オーラル テスト

テストの内容： 詳細は英文60－67ページをお読みください。

参考文献について： 練習用に初見演奏問題集(Specimen Aural Tests/Aural Training Practice)がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

聴覚障がいの受検者： 聴覚障がいの受検者は通常のテスト以外のテストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、次のリンクをご参照ください。 www.abrsm.org/specificneeds

グレード 1

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ハ、ヘ長調		
イ短調（自然・和音的短音階どちらかを受検者が選択）	1 oct. *	片手ずつ
3度スケール		
ハ長調	1 oct.	片手ずつ（14ページ参照）
アルペジオ		
ハ、ヘ長調		
イ短調	1 oct.	片手ずつ、または両手に分散を受検者が選択

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と61ページ参照

グレード 2

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ヘ、ト長調		
ニ、ホ短調（自然・和声的短音階どちらかを受検者が選択）	2oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で
3度スケール		
ヘ長調	1oct.	両手で（14ページ参照）
アルペジオ		
ヘ、ト長調		
ニ、ホ短調	2oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手に分散して

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と62ページ参照

*オクターヴ＝oct. で表記

グレード 3

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ニ, 変ロ長調 ロ、ト短調 和声的短音階	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
アルペジオ		
ニ, 変ロ長調 ロ、ト短調B	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
上記と同じ調	3 oct.	両手に分散させて

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と62ページ参照

グレード 4

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
変ホ, イ長調 ハ、嬰へ短調 和声的短音階	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
アルペジオ		
変ホ, イ長調 ハ、嬰へ短調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、又は両手で、第一転回形のみ
上記と同じ調	3 oct.	両手に分散させて、第一転回形のみ

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と63ページ参照

グレード 5

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ホ，変イ長調 嬰ハ，ヘ短調 和声的短音階	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴまたは6度間隔で
アルペジオ		
ホ，変イ長調 嬰ハ，ヘ短調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、第一転回形のみ
上記と同じ調	4 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、第二転回形のみ
属七和音		
ホの調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
	3 oct.	両手に分散させて

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と64ページ参照

グレード 6

事前取得条件：ABRSM グレード5 (またはそれ以上)の音楽理論、ブラクティカル・ミュージシャンシップ、ジャズのソロ楽器対面実技グレード資格の取得。代用資格は次を参照；www.abrsm.org/prerequisite。

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
変ニ，イ，ロ長調 変ロ，嬰ヘ，変イ短調 (和声的及び旋律的短音階)	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴまたは6度間隔で
親指エトフェスケール		
ロ長調	1 oct.	左手のみ (15ページ参照)
アルペジオ		
変ニ，イ，ロ長調 変ロ，嬰ヘ，変イ短調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で、基本形または第一転回形
上記と同じ調	4 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形または第一転回形
属七和音		
変ニの調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で、基本形のみ
	4 oct.	両手に分散させて、第一転回形のみ

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と65ページ参照

グレード 7

事前取得条件: ABRSM グレード5 (またはそれ以上)の音楽理論、プラクティカル・ミュージシャンシップ、ジャズのソロ楽器対面実技グレード資格の取得。代用資格は次を参照 ; www.abrsm.org/prerequisite.

課題曲リスト : 英文25-41ページを参照

スケールとアルペジオ : 暗譜; サンプルを含む詳細は英文13-21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ホ、変ト、変イ長調 嬰ハ、変ホ、ヘ短調 E (和声的と旋律的短音階)	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴまたは10度間隔で
反進行スケール		
変イ長調	2 oct.	両手で、1億他ヴの間隔で
エトフェスケール・オクターヴ		
ヘ短調 和声的短音階	1 oct.	左手のみ(15ページ参照)
ハーモニクス・スケール		
変ト長調	1 oct.	片手ずつ
アルペジオ		
ホ、変ト、変イ長調 嬰ハ、変ホ、ヘ短調	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて、基本形
属七和音		
変イと変トの調	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて、第二転回形のみ ナロー (狭い) ポジション、両手に分散させて (基本形のみ)
減七和音		
嬰ハから開始	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて

初見 : 初めて見る短い曲 : 詳細英文22-23ページ参照

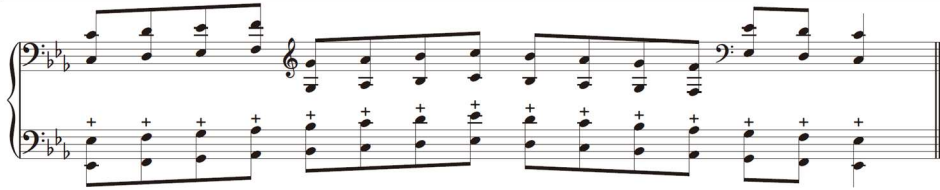
オーラルテスト : 検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と66ページ参照

グレード 8

事前取得条件: ABRSM グレード 5 (またはそれ以上) の音楽理論、プラクティカル・ミュージシャンシップ、ジャズのソロ楽器対面実技グレード資格の取得。代用資格は次を参照; www.abrsm.org/prerequisite.

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ: 暗譜; サンプルを含む詳細は英文13-21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
変ハ、変ホ、嬰ヘ長調	4 oct	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、6度または10度間隔で
変イ、ハ、変ホ 短調（和声的、及び旋律的短音階）		
反進行スケール		
変ホ 和声的短音階	2oct	両手、及び6度間隔
左手エトフェでオクターヴ、6度間スケール		
変ホ長調	1oct	両手、及び下記のパターン通りに
		
ハーモニクス・スケール		
変イ和声的短音階	1 oct.	両手で
アルペジオ		
変ハ、変ホ、嬰ヘ長調	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて、基本形、第一・第二転回形
変イ、ハ、変ホ短調		
属七和音		
変ハと嬰ヘの調	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて、基本形、第一・第二転回形
減七和音		
嬰ヘから開始	4 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、片手ずつまたは両手に分散させて ナローポジション、両手に分散させて（基本形のみ）

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と67ページ参照

ハーブ(ノンペダル)

対面実技グレード検定 2025

グレード 1

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ハ、ヘ長調		
イ短調(自然・和音的短音階どちらかを受 検者が選択)	1オクターヴ	片手ずつ
3度スケール		
ハ長調	1オクターヴ	片手ずつ (17ページ参照)
アルペジオ		
ハ、ヘ長調		
イ短調	1オクターヴ	片手ずつ、または両手に分散を受検者が選択

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と61ページ参照

グレード 2

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ヘ、ト長調		
ニ、ホ短調(自然・和声的短音階どちらかを 受検者が選択)	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で
3度スケール		
ヘ長調	1 oct.	両手で (17ページ参照)
アルペジオ		
ヘ、ト長調		
ニ、ホ短調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手に 分散して

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と62ページ参照

グレード3

課題曲リスト：英文25－41ページを参照
スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ニ、変ロ長調		
ロ短調 自然短音階	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
ト短調 和声的短音階		
アルペジオ		
ニ、変ロ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
ロ、ト短調		
上記と同じ調	3 oct.	両手に分散させて

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照
オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と62ページ参照

グレード4

課題曲リスト：英文25－41ページを参照
スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
変ホ、イ長調		
ハ短調 和声的短音階	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で
嬰へ短調 自然短音階		
アルペジオ		
変ホ、イ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で、 第一転回形のみ
ハ、嬰へ短調		
上記と同じ調	3 oct.	両手に分散させて、第一転回形のみ

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照
オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と63ページ参照

グレード5

課題曲リスト：英文25－41ページを参照
スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
ホ, へ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴ または6度間隔で
嬰ハ短調 自然短音階		
ニ短調 和声的短音階		
アルペジオ		
ホ, 変イ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、第 二転回形のみ
嬰ハ, 二短調	3 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、第二転 回形のみ
上記と同じ調		
属七和音		
への調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で 両手に分散させて
	3 oct.	

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照
オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と64ページ参照

グレード6

事前取得条件: ABRSM グレード5 (またはそれ以上)の音楽理論、プラクティカル・ミュージシャンシップ、ジャズのソロ楽器対面実技グレード資格の取得。代用資格は次を参照；www.abrsm.org/prerequisite.

課題曲リスト： 英文25－41ページを参照
スケールとアルペジオ： 暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
二長調	3 oct.	
変ロ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴまたは6度間隔で
ロ短調 自然短音階		
ト短調 和声的短音階		
ト短調 旋律的短音階	2 oct.	右手のみ
二音から始まるミクソリディアン音階	2 oct.	両手で
親指エトフェススケール		
ト短調 和声的短音階	1 oct.	左手のみ
アルペジオ		
二長調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、基本形または第一転回形で
	4 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形は第一転回形で
変ロ長調	2 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、基本形または第一転回形で
ロ、ト短調		
上記と同じ調	3 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形または第一転回形で
属七の和音		
二の調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、第一転回形のみ
	4 oct.	両手に分散させて、;第一転回形のみ

初見： 初めて見る短い曲；詳細英文22-23ページ参照
オーラルテスト： 検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と65ページ参照

グレード7

事前取得条件: ABRSM グレード5 (またはそれ以上)の音楽理論、プラクティカル・ミュージシャンシップ、ジャズのソロ楽器対面実技グレード資格の取得。代用資格は次を参照；www.abrsm.org/prerequisite.

課題曲リスト: 英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ: 暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求	
スケール			
嬰ハ短調 自然短音階	3oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、オクターヴまたは10度間隔で	
変ホ、ホ、ト長調	2oct.		
ハ、ホ短調 和声的短音階			
ハ、ホ短調 旋律的短音階	2oct.	右手のみ	
ホから始まるドリアン音階	2oct.	両手で	
エトフェスケール・オクターヴ			
ハ短調 和声的短音階	1 oct.	左手のみ(15ページ参照)	
ハーモニクス・スケール			
変ホ長調	1 oct.	片手ずつ	
アルペジオ			
嬰ハ短調	3oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、または両手で、基本形、第一、または第二転回形で	
	4oct.		検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形、第一または第二転回形で
変ホ、ホ、ト長調	2oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形、第一または第二転回形で	
ハ、ホ短調			
上記と同じ調	3oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形、第一または第二転回形で	
属七和音			
変ホとトの調	3oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、第二転回形のみ	
	4oct.		両手に分散させて、第二転回形のみ
	3oct.		ナロー・ポジション、両手に分散させて(基本形のみ)
減七和音			
嬰ハから開始	3oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で	
	4oct.		両手に分散させて

初見: 初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オールラテスト: 検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と66ページ参照

グレード8

課題曲リスト：英文25－41ページを参照

スケールとアルペジオ：暗譜；サンプルを含む詳細は英文13－21ページ参照

	範囲	要求
スケール		
へ長調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつ、両手で、6度または10度間隔で
ハ、イ長調		
嬰へ短調 自然短音階	2 oct.	
イ、ニ短調 和声的短音階		
イ、ニ短調 旋律的短音階	2 oct.	右手のみ
へ音から始まるブルース長音階		右手のみ
ニ音から始まるブルース短音階	3 oct.	
ハーモニクス・スケール		
へ長調	1 oct.	両手で
スタッカート・半音階		
ニ音から開始	1 oct.	右手のみ(20ページ参照)
アルペジオ		
へ長調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、基本形、第一または第二転回形で
	4 oct.	
ハ、イ長調		検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、基本形、第一または第二転回形で
イ、ニ、嬰へ短調	2 oct.	
上記と同じ調	3 oct.	検定員の指示通りに、両手に分散させて、基本形、第一または第二転回形で
属七の和音		
へとイの調	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で、基本形、第一、第二または第三転回形で
	4 oct.	
減七の和音		
	3 oct.	検定員の指示通りに、片手ずつまたは両手で
嬰へから開始	4 oct.	
	3 oct.	ナローポジション、両手に分散させて(基本形のみ)

初見：初めて見る短い曲：詳細英文22-23ページ参照

オーラルテスト：検定員がピアノで弾きながら出題。詳細英文60と67ページ参照

オーラル・テストの内容

検定では

オーラル テストは、実技検定の一部です。

オーラル テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいづれでもよい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

英文61-67ページには、各グレードの課題が詳しく述べられています。

いくつかのテストでは必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは評価に影響を与える場合もあります。

評価

ここでは個々の設問が採点されたり、ミスの数で減点されるものではなく、質問に対する受検者の反応を総括的に評価します。評価の基準については70ページのリストを参照のこと。

聴音例題集

オーラル テストの実例は、「聴音例題集」(*Specimen Aural Tests : イニシャルーG8まで*) 及び、「聴音指導書」(*Aural Training in Practice : G1-8のみ*) を参考にしてください。これらは、日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障がいを持つ受検者は、通常のオーラル・テストの代わりに特別試験を受けることが出来ます。受験申込みの際に、お申し出ください。詳細は、次のリンクをご参照ください。

www.abrsm.org/specificneeds.

イニシャルグレード*

- A. **パッセージに合わせて、拍を打つこと。**検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて間を置かずに拍をうってください。
- B. 2小節の3/4はいは4/4拍子の**フレーズが2題弾かれます**ので、それぞれの**フレーズの後に続いてそのリズムを打つこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しいリズムを打つこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C. 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが2題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- D. 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する1つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション(スタッカート／レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード 1

- A. 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B. 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C. 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。**2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分か**を答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D. 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション(スタッカート／レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード 2

- A. 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B. 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C. 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D. 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート／レガート)、②テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

* ピアノ、弦楽器、ドラムキットのみ

61

グレード3

- A. 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子**を教えてください。
- B. 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C. 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を教えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D. 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に教えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート／レガート）、テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）②調性（長調／短調）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード4

- A. 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B. **指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと**。出題は、ハ(C)、ヘ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C. (i) 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に教えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

(ii) C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が**2, 3, 4のいずれの拍子であるか**を教えてください。

GRADE 5

- A. 短い旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B. **指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと**。出題はシャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名を与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C. (i) 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- (ii) C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が**2, 3, 4のいずれの拍子であるか**を答えてください。

グレード6

- A. **二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B. **スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと**。出題は、シャープ、フラット3つまでの長調又は短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C. フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止（perfect）、半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- D. (i) 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。
- (ii) 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が**2, 3, 4のいずれの拍子であるかを答えてください**

グレード7

- A. **二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。** フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B. スコアを見て、**下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。** 出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C. (i) フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください。** 出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- (ii) 上記C1の終止形における**2つの和音を答えること。** 範囲はトニック(主和音－I)、サブドミナント(下属和音－IV)、ドミナント(属和音－V)、ドミナント7th(属七の和音－V7)、およびサブミディアント(下中和音－VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- (iii) 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください。** 出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D. (i) 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください。** 質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- (ii) 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと。** 次にその曲が**2, 3, 4 或いは6/8のいずれの拍子であるかを答えてください。**

グレード 8

- A. (i) **三声のフレーズが2回弾かれますので、最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。** フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- (ii) **長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。** 出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)に限られます。** 終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音－Ⅰ)の基本形、第1,2転回形、スーパートニック(上主和音－Ⅱ)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下属和音－Ⅳ)の基本形、ドミナント(属和音－Ⅴ)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－Ⅴ7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音－Ⅵ)の基本形です。初めに主和音が与えられます。
- (iii) **上記の終止形における3つの和音と転回形を答えてください。** 出題は、トニック(主和音－Ⅰ)の基本形、第1,2転回形、スーパートニック(上主和音－Ⅱ)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下属和音－Ⅳ)の基本形、ドミナント(属和音－Ⅴ)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－Ⅴ7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音－Ⅵ)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- B. スコアを見て、**上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。** 出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C. **2つの短いパッセージが、各々回ずつ弾かれますので、転調を答えてください。** 一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は**属調、下属調、平行調**への転調に限られます。転調先の調を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D. 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについて**ディスカッション**します。必要に応じて検定員がヒントを与えることもあります。

4. 評価と採点、及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは、それぞれのレベルにおける検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は74－75ページをご覧ください。

（訳註：英文59-60ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略）

評価の配点

ピアノ検定評価の点数は、下記のように、要素ごとに振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲1	30	20%
課題曲2	30	20%
課題曲3	30	20%
スケールとアルペジオ	21	14%
初見	21	14%
オーラル・テスト	18	12%
合計	150	100%

評価の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも100点（66％）を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction(秀)	130-150
Merit(優)	120-129
Pass(合格)	100-119
Below Pass(不合格)	50-99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力ー理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価賞与

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンスグレード⇔実技検定の評点の変更は行われることはありません。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適当である(例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない 等)
- 楽器検定のスケールを楽譜を見ながら演奏する
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合 For Singing and

これらに対する対応としては、

- 書面での警告：主に細かい違反(例：同じリストから2曲選択)に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲 1 など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為をABRSMに報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。

罰則なしの違反行為に関してのアピールは受け付けられません。

評価の基準

74-75ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。

採点基準

イニシャル からグレー ド8まで*	課題曲 音符・音程(ピッチ)	拍子/テンポ/リズム	音色	音楽的な形付け	演奏全体と表現
Distinction (秀) 27-30	● 極めて正確な音符/音程	● 流暢で、適切な場所では臨機応変に対応 ● リズムの特徴を把握し表現	● 明確に投影されている ● 音色を繊細な判断で上手く使い分ける	● 細部にわたる音楽的かつ様式に合った豊かな表現	● 自信に満ちた演奏 ● 音楽に没頭している ● 生き生きとした特徴とスタイルの伝達
Merit (優) 24-26	● ほぼ正確な音符/音程	● 持続性のある、適切なテンポ ● 良いリズム感	● 音色のコントロールと安定感 ● 良い音色の認識	● 細部に留意し、明確な音楽表現	● 肯定的 ● 音楽的な確信がある ● 音楽の特徴とスタイルの伝達
Pass (合格) 20-23	● 大体正確な音符/音程 ● 調性を保つに十分な音程	● ほど良いテンポ ● ほぼ安定した拍感 ● 概ね正確なリズム	● 安定感 ● 十分な音色の意識	● 音楽的な形付け/細部への配慮がある程度見られる	● 概ね安定的、ミスからの速い立ち直り ● ある程度の音楽的表現
Below Pass (不合格) 17-19	● 煩雑なミス ● 調性に影響する音程の不安定さ	● 不適切/不安定なテンポ ● 不均等な拍感 ● 不正確なリズム	● 不揃い/不安定な音色 ● 音色に対する認識が不十分	● 音楽的な形付け/細部への配慮が不十分	● 不安定、ミスからの不十分な立ち直り ● 不十分な音楽的表現
13-16	● 殆ど不正確な音符/音程	● 不安定で不確かなテンポ/拍感	● 音色コントロールの配慮が不足	● 音楽的な形付け/細部への配慮が殆どない	● 流れが途切れる ● 音楽的表現がまったくない
10-12	● 極めて不正確な音符/音程	● テンポ/拍子感の欠如	● 音色コントロールの欠如	● 音楽的な形付け/細部への配慮の欠如	● 短いセクション以上続けて演奏が出来ない
0	● 演奏なし	● 演奏なし	● 演奏なし	● 演奏なし	● 演奏なし

イニシャル からグレー ド8まで*	スケール・アルペジオ	初見
Distinction (秀) 19–21	- 極めて正確な音符/音程 - 流暢でリズムミカル - 音楽的な演奏 - 自信をもって即弾き始める	- 流暢で正確なリズム - 正確な音符/音程/調の理解 - 音楽的に理解している - 自信をもって弾いている
Merit (優) 17–18	- ほぼ正確な音符/音程 - ほぼ安定して流れている - 均一な音色 - 直ちに弾き始める	- 適切なテンポ、拍も安定している - ほぼ正確なリズム - ほぼ正確な音符/音程/調の理解 - ほぼ安定した演奏
Pass (合格) 14–16	- ミスはあるが大体正確な音符/音程 - 止まらずに弾いている - ほぼ安定した音色 - 慎重な弾きははじめ	- 流れは感じられる - 大体正確な音符 - ミスはあるが、アウトラインは把握 - 慎重な演奏
Below Pass (不合格) 11–13	- 音符/音程にミスが多い - 流れが不安定/こなせていない課題がある - 不安定な音色 - 弾き始めに時間がかかり、弾けない課題がある	- 継続性に欠ける - 音符の長さが不正確 - 音符/音程/調の理解が大雑把 - 不安定な演奏
7–10	- 不均等な音符/音程 - 極端にムラがある - 音色コントロールの深刻な欠如 - 非常に不確定な反応/部分的に弾けない部分	- 継続性なし/弾き通すのが困難 - 音符の長さの認識に欠ける - 音楽のアウトラインが欠如 - 極めて不安定な演奏
0	演奏なし	演奏なし

イニシャル からグレー ド8まで*	オール・テスト
Distinction (秀) 17–18	- 全て正しく答えている - 音楽的に理解している - 自信をもって即答している
Merit (優) 15–16	- 弱点はあるが、それに優る力が顕著である - 音楽的に理解している - 安定した反応
Pass (合格) 12–14	- 弱点はあるが、それに優る力が認められる - 反応が遅い
Below Pass (不合格) 9–11	- 欠点が多い - 不確かな反応
6–8	- どのテストにおいても正確さに欠ける - 非常に遅い反応
0	応答なし

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果をデジタル評価書で受け取ります。又合格者へは、資格のタイトル、楽器、グレードが記載されたデジタル合格証書が発行されます。印刷された合格証書は、少額の手数料を支払うことで入手が可能です。ABRSMはできるだけwww.abrsm.org/resultsのスケジュールに沿って、結果を発表するようにしておりますが、遅れる場合もあります。評価書と合格証書は、申込者に発行されます。もし受検者もアカウントを持っている場合は、申込者に結果が発表されてから7日以内に自信のアカウントでも確認できます。検定員が受検者の結果について語ったり発表したりすることはありません。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、**Result Review**を要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォーム（評価書）などについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

アピール、フィードバックの期限などの詳細はwww.abrsm.org/send-exam-feedbackをご覧ください。

課題曲リスト（演奏順）

Exam programme & running order

氏名 TARO KAKEHASHI

Name:

楽器 PIANO

Subject:

グレード

Grade:

5

曲とスケールどちらから始めますか？

What would you like to start your exam with?

PIECES

検定で演奏する曲の詳細を、演奏順に書いて、これを検定員又は受付に渡してください。検定が楽しく成功적입니다ように！

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

シラバス年度

Year of syllabus:

2025-2026

曲リスト

番号

作曲家

曲名

List*

Number

Composer

Title

A	2	Clementi	Spiritoso(1st mvt. from Sonatina in C, Op.36 No.3)
C	1	Joe Hisaishi	The Village in May arr. Kawaura
B	3	Schubert	Waltz in B minor D.145 No. 6

声楽のみ：無伴奏曲

Singers only: unaccompanied traditional song:

打楽器（パーカッション・混合）のみ：スケール・アルペジオの楽器：

Percussion (Combined) only: technical requirements on:

Exam programme & running order

Name: _____

Subject: _____ Grade: _____

What would you like to start your exam with? _____

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

Year of syllabus: _____

List*	Number	Composer	Title

Singers only: unaccompanied traditional song: _____

Percussion (Combined) only: technical requirements on: _____